

混沌とした中から

Windows Vista (5)

Vistaの最後にOfficeを書き込んで終わらなくなったので追加です。

ファイル形式に採用されたXML形式ですが、XMLは文書やデータの意味や構造を記述するためのマークアップ言語で、「タグ」と呼ばれる特定の文字列で文章の中に構造を埋め込んでいくもので、独自のタグを埋め込むこともできます。もともと任意のデータをWebで使用するHTMLと同様の感覚で送受信できることを目標に作られています。XMLはコンピュータ同士のデータ送受信に使用できるほか、Webブラウザで直接閲覧することを想定しています。Officeの場合、「文書の内容」の他に、「プロパティ」、「画像、映像、音楽」、「コメント」、「ユーザが定義したXMLデータ」、「グラフ」、「埋め込まれたプログラム」など複数のデータで構成されています。XMLを利用してOfficeソフトと業務システムをスムーズに連携させようとしているのですが、取り組みとしては現行の2003でも実施されているもので、2007になったときに初期時様態でのファイル形式をXMLに変更したり、ファイルの要素をパーツに分ける機能などよりスムーズになっているといえます。また、マイクロソフトは情報技術の標準を策定している団体にOfficeで使用するXMLの仕様を提出済みで、仕様が公開され標準と認められれば他のソフトメーカがこのフォーマットに対応する可能性もあります。Officeのアプリケーション間では必要なパーツ（例えばグラフなど）を取り出して再利用が出来るほか、一部のパーツが万一壊れたとしても全体に影響を及ぼさないなどメリットがあります。また、XML化することによってOfficeのアプリケーションを使わないでもデータを読み込むことができるため、システムの自動処理ができるようになります。

最後（また最後にですが）にVistaに付属する新しいブラウザのIE7についてです。一見はシンプルになったような画面構成ですが、新しいブラウザであるFirefoxやOperaなどに採用されていた「タブ」を採用しています。タブは複数のサイトを1つのウィンドウに表示し、タブで切り替えることによって閲覧することができる機能ですが、タブの順番を入れ替えできないなど他のブラウザより多少使い勝手が悪いものになっています（ようやく採用されたからよしとするか）。また印刷が改良され、初期設定で1ページの幅におさまるようになります。セキュリティ面ではいろいろ強化されています。まずフィッシング詐欺対策機能として、①ユーザが正当なWebサイトと報告したアドレスのリストとアクセスを試みたアドレスを比較し②アクセスを試みたサイトに対してフィッシング詐欺にありがちな特徴がないか調べ③アクセスを試みたサイトのアドレスをマイクロソフトに送って既知のフィッシング詐欺サイトのリストと照合するという機能があります。この分析結果から疑わしいと判断された場合は黄色し警告画面が出現し、さらにフィッシング詐欺サイトと判断された場合はブロックされます。また、ウイルスに感染するとよくシステムの設定を変更しますが、VistaとIE7の組み合わせの場合、プロテクトモードで動作するため、システムの設定の変更にユーザの許可が必要となりブロックすることもできます。

Office 2007を含めVistaはそのユーザインターフェースにかなりの変更が加えられているため、見た目も変わり使い方によっては別のソフトのように見えるほどになっています。ハードにも特にグラフィック性能を要求していますが、正式リリースがVistaが来年、Officeが今年末ということでもまだ多少流動的などころが気になっています。（連載終了）

(今週の情報誌から)

○NETWORKworld 7月号

緊急企画 Winnnyと情報漏洩の本当の関係

→Winnnyがウィルスに感染したことによる情報漏洩のニュースがぜんぜん減らない。Winnnyが危険だということが指摘されているが本質はどこにあるのか。Winnnyでなければよいのか。問題点を検証する。そもそもWinnnyは端末間でデータを交換するソフトで、サーバを必要としない。Winnnyを入れた端末にはアップロードフォルダという自分で公開したいデータを入れるフォルダとWinnnyを通して取得したデータが入るダウンロードフォルダが設定される。本来はこのアップロードフォルダに入れたデータのみが公開される。入っているデータの情報はWinnnyの端末間で構築される独自のネットワーク間で情報交換され検索することができる。このままであれば問題ない(著作権の問題は別として)はずであったがここでウィルスが登場する。最初のウィルス「Antinny」はWinnnyネットワークを自分自身の感染に利用したもので情報漏洩するものでなかったが、メールのアドレス帳や画面のキャプチャ画像データ(機密情報を開けていれば情報漏洩になる)などをアップロードフォルダに書き込んだり、WordやExcelファイルなどを公開しているうちに端末内の全てのデータを公開するものまで現れてきている。ちなみにWinnny以外にもいろいろデータ交換ソフトが存在するがほぼ全てに対して情報漏洩を興すウィルスが発見されているので、Winnnyでないから大丈夫ということはない。